

対象校No.  
注4

学校コード F114310104892  
注3

設置年度 令和 4年度

計画の区分： 大学院の設置  
注1

認可

注2

湘南鎌倉医療大学大学院 看護学研究科 看護学専攻(D)

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書  
(改正前大学設置基準適用)

学校法人徳洲会  
令和6年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名 大学事務局

職名・氏名 キョクチョウ マエダ ヒロシ  
局長 前田 広

電話番号 0467-38-3131

(夜間) 0467-38-3131

e-mail soumu@sku.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に  
( )書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

4 対象校No.については、「【別紙】令和6年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、該当番号を記載してください。

# 目次

## 看護学研究科

＜看護学専攻博士後期課程＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	6
3. 施設・設備の整備状況、経費	12
4. 既設大学等の状況	該当無
5. 教員組織の状況	14
6. 附帯事項等に対する履行状況等	21
7. その他全般的事項	24

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人徳洲会

## (2) 大学名

湘南鎌倉医療大学

## (3) 調査対象大学等の位置

〒247-0066  
神奈川県鎌倉市山崎1195-3

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(スズキ タカオ) 鈴木 隆夫 (令和元年9月就任)	(フクシマ ヤスヨシ) 福島 安義 (令和5年4月就任)	前任者の理事長辞任のため 令和5年4月13日就任(5)
学長	(アラガ ナオコ) 荒賀 直子 (令和2年4月就任)	(アラガ ナオコ) 荒賀 直子 (令和6年4月再任)	設置時と同じ人物が再任(6)
研究科長	(モリ アキコ) 森 明子 (令和4年4月就任)		令和4年4月1日就任(4)
学科長等			

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。  
(例) 令和5年度に報告済の内容 → (5)  
令和6年度に報告する内容 → (6)  
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。  
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。  
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。  
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。  
 ・ 様式は、令和元年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和6年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。  
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。  
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含まれていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程 博士(看護学)	保健衛生学関係 (看護学関係)	3 年	3 人	2年次 0 3年次 0 4年次 人	9 人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。  
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。  
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に入力してください。  
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		春季入学以外の学期区分について	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期														
A 入学定員	人 ( ) [ ]	3 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	3 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	3 ( ) [ ]									
志願者数	( ) [ ]	5 [ ]	( ) [ ]	3 [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	3 [ ]		1.0倍	-倍						
受験者数	( ) [ ]	5 [ ]	( ) [ ]	3 [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	3 [ ]									
合格者数	( ) [ ]	5 [ ]	( ) [ ]	3 [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	3 [ ]									
B 入学者数	( ) [ ]	5 [ ]	( ) [ ]	3 [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	2 [ ]									
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	1.66	-	1	-	-	0.66				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。  
 ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。  
 ・ ( )内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(( ))書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。  
 ・ 転入学生は記入しないでください。  
 ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。  
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。  
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。  
 ・ なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。  
 ・ 報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」に「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択してください。  
 ・ (春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「-」を選択)。  
 ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和7年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。  
 ・ なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。  
 ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。  
 ・ なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。  
 ・ 「(5) - ② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		備 考
	春季入学	その他の学期											
1年次	- [ - ] ( - )	5 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	3 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	2 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )						
2年次			- [ - ] ( - )	4 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	3 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )						
3年次					- [ - ] ( - )	4 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )						
4年次							- [ - ] ( - )						
計	- [ - ] ( - )	5 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	7 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	9 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留学生の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。  
また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した**在学者数、**留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	5 人	1 人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	1 人	人	家庭の事情(1人)
令和5年度	7 人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
令和6年度	9 人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
			令和6年度	人	人	
合 計		1 人		1 人	0 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
  - ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
  - ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
  - ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{5} = \boxed{20} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{7} = \boxed{0} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{9} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

## 2 授業科目の概要

<看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程>

### (1) -① 授業科目表

#### 【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	看護学研究法	1前	2			1					兼1
	英語論文演習	1前	2								
	看護学の実践と研究 特講Ⅱ	1後	2			8	2				
	地域生活看護論Ⅱ	1後	2			3					
	理論看護学	1後	2			1					
	小計(5科目)										
専門科目	生涯発達看護学分野科目 リプロダクティブヘルス看護学特論D	1通	2			1					
		リプロダクティブヘルス看護学演習D	2通	2			1				
	小児看護学分野科目 小児看護学特論D	1通	2			2					
		小児看護学演習D	2通	2			2	1			
	成人看護学分野科目 成人看護学特論D	1通	2			1					
		成人看護学演習D	2通	2			1				
	老年看護学分野科目 老年看護学特論D	1通	2			1					
		老年看護学演習D	2通	2			1				
	広域看護学分野科目 在宅看護学特論D	1通	2			1					
		在宅看護学演習D	2通	2			1				
	公衆衛生看護学分野科目 公衆衛生看護学特論D	1通	2			1					
		公衆衛生看護学演習D	2通	2			1				
小計(12科目)											
特別研究	看護学特別研究D	1~3通	8			9	3				
	小計(1科目)	-									
合計(18科目)		-									
卒業要件及び履修方法											
所定の授業科目を20単位(共通科目から必修6単位、分野必修2単位(生涯発達看護学分野は「看護学の実践と研究 特講Ⅱ」、広域看護学分野は「地域生活看護論Ⅱ」)を含み計8単位、専門科目4単位)以上修得しなければならない。専門科目は6領域の中から1領域の特論2単位、演習2単位以上を修得し、かつ、当該領域における看護学特別研究D8単位以上を修得し、博士の学位論文についての審査及び最終試験に合格しなければならない。											

#### 【令和6年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	看護学研究法	1前	2			1					兼1	
	英語論文演習	1後	2									
	看護学の実践と研究 特講Ⅱ	1後	2			8	2					
	地域生活看護論Ⅱ(未開講)	1後	2			3						
	理論看護学	1後	2			1						
	看護学の実践と研究 特講Ⅲ	1後	1									兼2
	ヘルスサイエンス	1後	1									兼2
小計(7科目)												
専門科目	生涯発達看護学分野科目 リプロダクティブヘルス看護学特論D(未開講)	1通	2			2						
		リプロダクティブヘルス看護学演習D(未開講)	2通	2			2					
	小児看護学分野科目 小児看護学特論D(未開講)	1通	2			1						
		小児看護学演習D(未開講)	2通	2			1	1				
	成人看護学分野科目 成人看護学特論D	1通	2			1						
		成人看護学演習D	2通	2			1					
	老年看護学分野科目 老年看護学特論D	1通	2			1						
		老年看護学演習D(未開講)	2通	2			1					
	広域看護学分野科目 在宅看護学特論D(未開講)	1通	2			1						
		在宅看護学演習D	2通	2			1					
	公衆衛生看護学分野科目 公衆衛生看護学特論D(未開講)	1通	2			1						
		公衆衛生看護学演習D(未開講)	2通	2			1					
小計(12科目)												
特別研究	看護学特別研究D	1~3通	8			10	2					
	小計(1科目)	-										
合計(20科目)		-										
卒業要件及び履修方法												
所定の授業科目を20単位(共通科目から必修6単位、分野必修2単位(生涯発達看護学分野は「看護学の実践と研究 特講Ⅱ」、広域看護学分野は「地域生活看護論Ⅱ」)を含み計8単位、専門科目4単位)以上修得しなければならない。専門科目は6領域の中から1領域の特論2単位、演習2単位以上を修得し、かつ、当該領域における看護学特別研究D8単位以上を修得し、博士の学位論文についての審査及び最終試験に合格しなければならない。												

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	看護学研究法	1前	2			1					兼1
	英語論文演習	1後	2								
	看護学の実践と研究 特講Ⅱ	1後	2		8	2					
	地域生活看護論Ⅱ	1後	2		3						
	理論看護学	1後	2		1						
小計(5科目)											
専門科目	生涯発達看護学分野科目	護ヘクリ学ルテブ科スイロ目看ブダ	1通	2		1					
		リプロダクティブヘルス看護学特論D(未開講)	2通	2		1					
	護小目学児科看	小児看護学特論D(未開講)	1通	2		2					
		小児看護学演習D	2通	2		2	1				
	護成目学人科看	成人看護学特論D	1通	2		1					
		成人看護学演習D	2通	2		1					
	護老目学年科看	老年看護学特論D(未開講)	1通	2		1					
		老年看護学演習D(未開講)	2通	2		1					
	広域看護学分野科目	在宅看護学特論D	1通	2		1					
		在宅看護学演習D(未開講)	2通	2		1					
	学生公科看衆目護衛	公衆衛生看護学特論D(未開講)	1通	2		1					
		公衆衛生看護学演習D(未開講)	2通	2		1					
小計(12科目)											
特別研究	看護学特別研究D	1~3通	8			9	3				
	小計(1科目)	-									
合計(18科目)		-									
卒業要件及び履修方法											
所定の授業科目を20単位(共通科目から必修6単位、分野必修2単位(生涯発達看護学分野は「看護学の実践と研究 特講Ⅱ」、広域看護学分野は「地域生活看護論Ⅱ」)を含み計8単位、専門科目4単位)以上修得しなければならない。専門科目は6領域の中から1領域の特論2単位、演習2単位以上を修得し、かつ、当該領域における看護学特別研究D8単位以上を修得し、博士の学位論文についての審査及び最終試験に合格しなければならない。											

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	看護学研究法	1前	2			1					兼1
	英語論文演習	1後	2								
	看護学の実践と研究 特講Ⅱ	1後	2		8	2					
	地域生活看護論Ⅱ	1後	2		3						
	理論看護学	1後	2		1						
小計(5科目)											
専門科目	生涯発達看護学分野科目	護ヘクリ学ルテブ科スイロ目看ブダ	1通	2		1					
		リプロダクティブヘルス看護学特論D(未開講)	2通	2		1					
	護小目学児科看	小児看護学特論D	1通	2		2					
		小児看護学演習D	2通	2		2	1				
	護成目学人科看	成人看護学特論D	1通	2		1					
		成人看護学演習D	2通	2		1					
	護老目学年科看	老年看護学特論D(未開講)	1通	2		1					
		老年看護学演習D	2通	2		1					
	広域看護学分野科目	在宅看護学特論D	1通	2		1					
		在宅看護学演習D	2通	2		1					
	学生公科看衆目護衛	公衆衛生看護学特論D(未開講)	1通	2		1					
		公衆衛生看護学演習D	2通	2		1					
小計(12科目)											
特別研究	看護学特別研究D	1~3通	8			9	3				
	小計(1科目)	-									
合計(18科目)		-									
卒業要件及び履修方法											
所定の授業科目を20単位(共通科目から必修6単位、分野必修2単位(生涯発達看護学分野は「看護学の実践と研究 特講Ⅱ」、広域看護学分野は「地域生活看護論Ⅱ」)を含み計8単位、専門科目4単位)以上修得しなければならない。専門科目は6領域の中から1領域の特論2単位、演習2単位以上を修得し、かつ、当該領域における看護学特別研究D8単位以上を修得し、博士の学位論文についての審査及び最終試験に合格しなければならない。											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字**としてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
  - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
  - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
  - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
  - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。(例:記載順)【認可時又は届出時】→【令和6年度(新)】→【令和5年度(新)】→【令和4年度】→【令和3年度】→【令和6年度(旧)】→【令和5年度(旧)】

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

**【令和4年度】**

特になし。

**【令和5年度】**

特になし。

**【令和6年度】**

(記入例)

・専任教員補充の理由により、「リプロダクティブヘルス看護学特論D」と「リプロダクティブヘルス看護学演習D」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」に変更。  
・専任教員退職の理由により、「小児看護学特論D」と「小児看護学演習D」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」へ変更。  
・専任教員の准教授から教授への昇任の理由により、「看護学特別研究D」の専任教員の配置を「教授9」から「教授10」へ、「准教授3」から「准教授2」へそれぞれ変更。  
・教育課程の充実のため、共通科目に選択科目2科目（「看護学の実践と研究 特講Ⅲ」と「ヘルスサイエンス」）を追加し、各科目それぞれ2名の兼任講師を追加。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
  - ・ 不要な年度（令和5年度開設であれば令和4年度以前）の表は適宜削除してください。
  - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
4 科目	14 科目	0 科目	18 科目	4 科目 [0]	16 科目 [2]	0 科目 [0]	20 科目 [2]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
  - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
  - ・ 該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{18} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。  
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考					
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	借用面積：680.00㎡ 借用期間：大学開設後20年					
	校舎敷地	5,819.01㎡	㎡	㎡	5,819.01㎡						
	運動場用地	680.00㎡	㎡	㎡	680.00㎡						
	小 計	6,499.01㎡	㎡	㎡	6,499.01㎡						
	そ の 他	828.71㎡	㎡	㎡	828.71㎡						
	合 計	7,327.72㎡	㎡	㎡	7,327.72㎡						
(2) 校 舎	専 用	78.79㎡	6,674.34㎡	0㎡	6,753.13㎡	大学全体					
	(78.79㎡)	(6,674.34㎡)	(0㎡)	(6,753.13㎡)							
(3) 教 室 等	講 義 室	4室	演 習 室	10室	実験実習室	5室	情報処理学習施設	1室	語学学習施設	1室	大学全体
						(補助職員 1人)		(補助職員 1人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数							
	看護学研究科看護学専攻			15 室							
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機 械 ・ 器 具	標 本				
		〔うち外国書〕冊	〔うち外国書〕種	電子ジャーナル〔うち外国書〕				点	点	点	
	看護学研究科看護学専攻	11657 [1070] (12232 [1118])	7291 [5820] (7680 [6063])	7244 [5806] (7648 [6065])	103 (247)	5785 (5785)	20 ( 20 )				
		計	11657 [1070] (12232 [1118])	7291 [5820] (7680 [6063])	7244 [5806] (7648 [6065])	103 (247)	5785 (5785)	20 ( 20 )			
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数						
	375.36㎡		93 83		20000						
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要								
	708.97㎡		なし								
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	数字は大学全体のもの 開設前年度の図書購入費の増は、契約により、詳細が確定したことによる。(3)		
		教員1人当り研究費等	300千円	300千円	図書購入費	13,190千円	9,000千円	— 千円			
		共同研究費等	3,000千円	3,000千円	設備購入費	18,485千円	2,000千円	— 千円			
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	博士後期課程			
		1,100千円	800千円	800千円	— 千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		寄付金、手数料収入等									

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(6)」を「備考」に赤字で記入してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。

- ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「（８）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

5 教員組織の状況

<看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程>

(1) ① 担当教員表  
【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	【令和4年度】		【令和5年度】		【令和6年度】	
		氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	森(京藤) 明子 (64) <令和4年4月> 博士(看護学)	看護学の実践と研究 特講Ⅱ※ リプロダクティブヘルス看護学特論D リプロダクティブヘルス看護学演習D 看護学特別研究D	森(京藤) 明子 (64) <令和4年4月> 博士(看護学)	看護学の実践と研究 特講Ⅱ※ リプロダクティブヘルス看護学特論D リプロダクティブヘルス看護学演習D 看護学特別研究D	森(京藤) 明子 (65) <令和4年4月> 博士(看護学)	看護学の実践と研究 特講Ⅱ※ リプロダクティブヘルス看護学特論D リプロダクティブヘルス看護学演習D 看護学特別研究D
専	教授	眞鍋 知子 (58) <令和4年4月> 博士(保健学)	看護学の実践と研究 特講Ⅱ※ 看護学特別研究D	眞鍋 知子 (58) <令和4年4月> 博士(保健学)	看護学の実践と研究 特講Ⅱ※ 看護学特別研究D	眞鍋 知子 (59) <令和4年4月> 博士(保健学)	看護学の実践と研究 特講Ⅱ※ 看護学特別研究D
専	教授	小山(滝) 幸代 (67) <令和4年4月> 博士(人間科学)	看護学の実践と研究 特講Ⅱ※ 地域生活看護論Ⅱ※ 老年看護学特論D 老年看護学演習D 看護学特別研究D	小山(滝) 幸代 (67) <令和4年4月> 博士(人間科学)	看護学の実践と研究 特講Ⅱ※ 地域生活看護論Ⅱ※ 老年看護学特論D 老年看護学演習D 看護学特別研究D	小山(滝) 幸代 (68) <令和4年4月> 博士(人間科学)	看護学の実践と研究 特講Ⅱ※ 地域生活看護論Ⅱ※ 老年看護学特論D 老年看護学演習D 看護学特別研究D
専	教授	西村 あおい (65) <令和4年4月> 博士(医学)	看護学の実践と研究 特講Ⅱ※ 小児看護学特論D※ 小児看護学演習D 看護学特別研究D	西村 あおい (65) <令和4年4月> 博士(医学)	看護学の実践と研究 特講Ⅱ※ 小児看護学特論D※ 小児看護学演習D 看護学特別研究D	西村 あおい (66) <令和4年4月> 博士(医学)	
専	教授	野中 淳子 (67) <令和4年4月> 博士(看護学)	看護学の実践と研究 特講Ⅱ※ 小児看護学特論D※ 小児看護学演習D 看護学特別研究D	野中 淳子 (67) <令和4年4月> 博士(看護学)	看護学の実践と研究 特講Ⅱ※ 小児看護学特論D※ 小児看護学演習D 看護学特別研究D	野中 淳子 (68) <令和4年4月> 博士(看護学)	看護学の実践と研究 特講Ⅱ※ 小児看護学特論D※ 小児看護学演習D 看護学特別研究D
専	教授	福島 道子 (72) <令和4年4月> 博士(社会福祉学)	看護学の実践と研究 特講Ⅱ※ 地域生活看護論Ⅱ※ 在宅看護学特論D 在宅看護学演習D 看護学特別研究D	福島 道子 (72) <令和4年4月> 博士(社会福祉学)	看護学の実践と研究 特講Ⅱ※ 地域生活看護論Ⅱ※ 在宅看護学特論D 在宅看護学演習D 看護学特別研究D	福島 道子 (73) <令和4年4月> 博士(社会福祉学)	看護学の実践と研究 特講Ⅱ※ 地域生活看護論Ⅱ※ 在宅看護学特論D 在宅看護学演習D 看護学特別研究D
専	教授	北岡(内田) 英子 (66) <令和4年4月> 博士(看護学)	看護学の実践と研究 特講Ⅱ※ 地域生活看護論Ⅱ※ 公衆衛生看護学特論D 公衆衛生看護学演習D 看護学特別研究D	北岡(内田) 英子 (66) <令和4年4月> 博士(看護学)	看護学の実践と研究 特講Ⅱ※ 地域生活看護論Ⅱ※ 公衆衛生看護学特論D 公衆衛生看護学演習D 看護学特別研究D	北岡(内田) 英子 (67) <令和4年4月> 博士(看護学)	看護学の実践と研究 特講Ⅱ※ 地域生活看護論Ⅱ※ 公衆衛生看護学特論D 公衆衛生看護学演習D 看護学特別研究D
専	教授	黒田(佐藤) 裕子 (67) <令和4年4月> 看護学博士	看護学研究法 看護学の実践と研究 特講Ⅱ※ 理論看護学 成人看護学特論D 成人看護学演習D 看護学特別研究D	黒田(佐藤) 裕子 (67) <令和4年4月> 看護学博士	看護学研究法 看護学の実践と研究 特講Ⅱ※ 理論看護学 成人看護学特論D 成人看護学演習D 看護学特別研究D	黒田(佐藤) 裕子 (68) <令和4年4月> 看護学博士	看護学研究法 看護学の実践と研究 特講Ⅱ※ 理論看護学 成人看護学特論D 成人看護学演習D 看護学特別研究D
専	教授	荒賀 直子 (76) <令和4年4月> 博士(医学)	看護学特別研究D	荒賀 直子 (76) <令和4年4月> 博士(医学)	看護学特別研究D	荒賀 直子 (77) <令和4年4月> 博士(医学)	看護学特別研究D
							蛭田(岡田) 明子 (56) <令和6年4月> 博士(看護学)
							看護学の実践と研究 特講Ⅱ※ リプロダクティブヘルス看護学特論D リプロダクティブヘルス看護学演習D 看護学特別研究D

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授	和田(伊藤) 美也子 (53) <令和4年4月> 博士(看護学)	専	准教授	和田(伊藤) 美也子 (53) <令和4年4月> 博士(看護学)	専	准教授	和田(伊藤) 美也子 (54) <令和4年4月> 博士(看護学)
		看護学の実践と研究 特講Ⅱ※ 看護学特別研究D			看護学の実践と研究 特講Ⅱ※ 看護学特別研究D			看護学の実践と研究 特講Ⅱ※ 看護学特別研究D
専	准教授	米山(中林) 雅子 (52) <令和4年4月> 博士(心身健康科学)	専	准教授	米山(中林) 雅子 (52) <令和4年4月> 博士(心身健康科学)	専	准教授	米山(中林) 雅子 (54) <令和4年4月> 博士(心身健康科学)
		看護学の実践と研究 特講Ⅱ※ 小児看護学演習D 看護学特別研究D			看護学の実践と研究 特講Ⅱ※ 小児看護学演習D 看護学特別研究D			看護学の実践と研究 特講Ⅱ※ 小児看護学演習D 看護学特別研究D
専	准教授	小森 直美 (56) <令和4年4月> 修士(教育学)	専	准教授	小森 直美 (56) <令和4年4月> 修士(教育学)	専	准教授	小森 直美 (57) <令和4年4月> 博士(教育学)
		看護学特別研究D			看護学特別研究D			看護学特別研究D
兼任	講師	田島 祐規子 (66) <令和4年4月> Teaching English to Speakers of Other Languages (米国)	兼任	講師	田島 祐規子 (66) <令和4年4月> Teaching English to Speakers of Other Languages (米国)	兼任	講師	田島 祐規子 (67) <令和4年4月> Teaching English to Speakers of Other Languages (米国)
		英語論文演習			英語論文演習			英語論文演習
							兼任	講師
								川原(井上) 由佳里 (61) <令和6年4月> 博士(看護学) 博士(歴史学)
								看護学の実践と研究 特講Ⅲ※
							兼任	講師
								西村 ユミ (55) <令和6年4月> 博士(看護学)
								看護学の実践と研究 特講Ⅲ※
							兼任	講師
								津野 香奈美 (39) <令和6年4月> 博士(看護学)
								ヘルスサイエンス
							兼任	講師
								大田 えりか (46) <令和6年4月> 保健学博士
								ヘルスサイエンス

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
- ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
  - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
  - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。
  - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目名を記入してください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和4年度】

特になし

【令和5年度】

特になし

【令和6年度】

・西村あいを教授退職(令和6年3月31日付)。  
・西村あいを教授の退職に伴い、令和6年4月蛭田明子教授を採用(令和5年9月AC教員審査済)。  
・令和6年4月小森直美准教授が教授に昇任(令和5年12月AC教員審査済)。  
・「看護学の実践と研究 特講Ⅲ」の開講にともない、川原由佳里兼任講師と西村ユミ兼任講師を採用した。  
・「ヘルスサイエンス」の新規開講にともない、太田えりか兼任講師と津野香奈美兼任講師を採用した。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**原則としてAC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ませ**
  - ・ AC教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
12	6	6
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文科省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計（A）	助手（A'）	教授	准教授	講師	助教	計（B）	助手（B'）
9	3	0	0	12	0	10	2	0	0	12	0
(9)	(3)	(0)	0	(12)	0						
研究指導教員数	うち教授数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/		研究指導教員数	うち教授数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/	
7	7	5	0			7	7	5	0		
(7)	(7)	(5)	0			(7)	(7)	(5)	0		
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計（C）	助手（C'）	教授	准教授	講師	助教	計（D）	助手（D'）
10	2	0	0	12	0	10	2	0	0	12	0
[1]	[△1]	[0]	[0]	[0]	[0]	[1]	[△1]	[0]	[0]	[0]	[0]
研究指導教員数	うち教授数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/		研究指導教員数	うち教授数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/	
7	7	5	0			7	7	5	0		
[0]	[0]	[0]	[0]			[0]	[0]	[0]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要せず済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、  
 [ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、  
 [ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	7	7
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二桁書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{12}{12} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) -⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{7}{12} = \boxed{58.33} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) -⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし								
合計（D）						後任補充状況の集計（E）				
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	教授	西村 あをい	R6.3	必修	看護学の実践と研究 特講Ⅱ	①	R6.3.31付け一身上の都合のため辞任(6)			
				選択	小児看護学特論D	①				
				選択	小児看護学演習D	①				
				必修	看護学特別研究D	①				
合計（F）						後任補充状況の集計（G）				
辞任した教員数			担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）
1	人	必修	2	科目	必修	2	科目	必修	0	科目
		選択	2	科目	選択	2	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	4	科目	計	4	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計(D) + (F)				後任補充状況の集計(E) + (G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
1	人	必修	2 科目	必修	2 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	2 科目	選択	2 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	4 科目	計	4 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{1}{12} = 8.33 \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 令和5年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

1 人

(注) ・ (3) -①、(3) -②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。  
 ・ 令和6年度開設の学科等の場合、(D) + (F)と同数を記載してください。

(3) -⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし							
合計				後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について、記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

令和6年3月31日付で退職した教授1名は小児看護学領域の教員であり、この領域には退職した教員の他に教授1名、准教授1名がいることから、専門領域の科目についてはこの2名の教員で対応することで問題はないものとする。また、50代の教授を1名新たに採用することでオムニバス授業等についても対応することができることから問題がないものとする。(令和5年9月AC教員審査済)

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区分	附帯事項等		履行状況		今後の実施計画
認可時  (令和3年)	1. 設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、学術の理論及び応用を教授研究するという大学院の目的に照らし、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	【認可】 遵守事項	設置の趣旨・目的等を反映した設置計画を履行中である。具体的には、初年次入学した学生に対する履修指導、授業計画の実施、研究指導が予定通り開始され進行中である。図書館の蔵書、検索エンジンの充実が図られつつある。学生の教育研究活動を支援するための設備環境にも配慮している。(4) 令和4年度から継続的に新入生に対する履修・研究指導を行うとともに、令和4年度から大学院生研究費(年5万円)を学生へ支給して、学生の研究を支援して充実を図った。また、定期的な研究発表会を実施することで水準を向上させてきた。(6)	履行済	設置の趣旨・目的等に示された人材の養成を目指し、教育課程を今後も実施していく計画である。大学組織及び母体である法人の支援を求め、教育研究活動の水準を上げる又はために努力をする。(4)(5) 教育研究活動の水準を向上させるために、研究科委員会等での検討を進めていき、引き続きその水準を向上させていくことに努めていく。(6)
認可時  (令和3年)	2. 各授業科目のシラバスにおいて、当該科目とディプロマ・ポリシーとの関係、科目責任者及び成績評価基準を記載し、学生に対して明示することが望ましい。	【認可】 助言事項	各授業科目のシラバスに、当該科目と関係のあるディプロマ・ポリシーの項目及び科目責任者、成績評価基準を明記し、学生ポータルサイトからいつでも見られるようにしている。(4)	履行済	今後も現状を維持し実施していく計画である。(4)(5)(6)
設置計画履行状況  調査結果  (令和3年度)	3. ディプロマ・ポリシーⅠと強く関連する授業科目が充実している遵守事項Ⅰと強く関連する授業科目が充実している一方で、ディプロマ・ポリシーⅡ及びⅢと強く関連する授業科目が非常に少なく、それぞれのディプロマ・ポリシーに対応した授業科目の配置に偏りが見受けられることから、本課程の教育研究上の理念及び目的の達成に向けて、ディプロマ・ポリシーⅡ及びⅢと強く関連する授業科目を充実するなどカリキュラムの改善を図ること。(看護学専攻(D))	【認可】 遵守事項	博士後期課程の5名が1年次前期のカリキュラムに取り組んでいる。ディプロマポリシーⅡ「看護実践の向上に貢献する研究成果を公表し社会に還元する能力を修得している」及びⅢ「看護研究者として、学際的な協働・連携を推進できる能力を修得している」は、ディプロマポリシーⅠと関連する科目のうち、とくに「英語論文演習」及び「看護学の実践と研究 特講Ⅱ」とも関連する。さらに、科目「看護学特別研究(D)」は学修過程で、予備研究、本研究を通じ成果を公表する能力を修得するものであり、ディプロマポリシーⅡとの関連がある。(4) 令和6年度からディプロマポリシーⅡとⅢに関連する授業科目を充実するため、新たに「看護学の実践と研究特講Ⅲ」と「ヘルスサイエンス」を開講してカリキュラムの改善を図った。(6)	履行済	博士後期課程の科目「英語論文演習」及び「看護学の実践と研究 特講Ⅱ」、「看護学特別研究(D)」の教授-学修過程において、ディプロマポリシーⅡ・Ⅲと関連することを絶えず、教授陣は意識し、学生が達成できるように、学際的な協働・連携の例示をしたり、多領域の専門家の意見聴取や議論する機会を設ける等、学修内容や方法を工夫する。また、学生に国内の学会のみならず、積極的に国際学会への参加及び発表を促す計画である。(4)(5) 今後も時代や学生のニーズに合わせたカリキュラムの改善の検討を継続的に進め、必要に応じて改善していく。(6)

<p>設置計画履行状況</p> <p>調査結果</p> <p>(令和3年度)</p>	<p>4. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。</p>	<p>【認可】 遵守事項</p>	<p>審査の過程での是正意見を踏まえて作成した教員の退職と補充計画に基づき履行中である。令和3年度には若手教員1名と中堅教員1名が博士号を取得し、将来の大学院を担う人材を養成中である。(4) 令和4年度には若手教員1名が博士号を取得し、将来大学院を担う人材を養成中である。(5) 令和5年度に50代の教授1名がAC教員審査に合格したことから、令和6年度からこの教員を担当に加えることとした。また、定年規程を超えた教員1名が退職したことから、定年規程を超える専任教員の割合を下げた。(6)</p>	<p>履行中</p>	<p>今後の教員の組織編成は、審査の過程での是正意見を踏まえて作成した教員の退職と補充計画に基づき実施する。(4) (5) (6)</p>
<p>設置計画履行状況</p> <p>調査結果</p> <p>(令和4年度)</p>	<p>定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想を策定し、着実に実施すること。</p>	<p>【A C】 指摘事項 (改善)</p>	<p>審査の過程での是正意見を踏まえて作成した教員の退職と補充計画に基づき履行中である。令和3年度には若手教員1名と中堅教員1名が博士号を取得し、将来の大学院を担う人材を養成中である。また、令和4年度には若手教員1名が博士号を取得し、将来大学院を担う人材を養成中である。(5) 令和5年度に50代の教授1名がAC教員審査に合格したことから、令和6年度からこの教員を担当に加えることとした。また、定年規程を超えた教員1名が退職したことから、定年規程を超える専任教員の割合を下げた。(6)</p>	<p>履行中</p>	<p>今後の教員の組織編成は、審査の過程での是正意見を踏まえて作成した教員の退職と補充計画に基づき実施する。(5) (6)</p>
<p>設置計画履行状況</p> <p>調査結果</p> <p>(令和5年度)</p>	<p>定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想を策定し、着実に実行すること。</p>	<p>【A C】 指摘事項 (改善)</p>	<p>審査の過程での是正意見を踏まえて作成した教員の退職と補充計画に基づき履行中である。令和3年度には若手教員1名と中堅教員1名が博士号を取得し、将来の大学院を担う人材を養成中である。また、令和4年度には若手教員1名が博士号を取得し、将来大学院を担う人材を養成中である。(5) 令和5年度に50代の教授1名がAC教員審査に合格したことから、令和6年度からこの教員を担当に加えることとした。また、定年規程を超えた教員1名が退職したことから、定年規程を超える専任教員の割合を下げた。(6)</p>	<p>履行済</p>	<p>今後の教員の組織編成は、審査の過程での是正意見を踏まえて作成した教員の退職と補充計画に基づき、引き続き実施する。また、若手教員の育成を引き続き行っていく。(6)</p>

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。  
**【令和5年度報告書から記載内容に変更がある場合】**  
令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「（5）」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（6）」と記載してください。  
**【令和5年度報告書から記載内容に変更がない場合】**  
令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「（5）（6）」と記載してください。  
**【令和6年度から新たに調査対象となった学科等又は令和5年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】**  
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（6）」と記載してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

<看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
① 修了要件単位数 20単位 必修科目14単位、選択科目6単位  ② 施設・設備 c 図書館座席数80席 図書11657冊、視聴覚資料103点	① 修了要件単位数に変更はないが、学生の学修の幅を広げるためや専門性をより高めるため、選択科目(2科目)を追加。  ② 学生の修学環境を改善するため、令和5年度は図書館の座席数を13席増やすとともに、図書79冊、視聴覚資料13点を増やした。

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

### (2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

① 実施体制 a 委員会の設置状況  学則第3条第2項の規定に基づきFD・SD委員会を設置している。 (趣旨) 第1条 湘南鎌倉医療大学(以下「本学」という。)は、学則第3条第2項の規定に基づき、本学の教育目的の達成に向け、ファカルティ・ディベロップメント(以下「FD」という。)及びスタッフ・ディベロップメント(以下「SD」という。)を積極的に推進するために、湘南鎌倉医療大学FD・SD委員会(以下「委員会」という。)を置き、必要な事項を定める。 2 委員会は、本学の教育目的を達成するため、教育・研究内容及び教育方法についての改善、教育・研究活動等の支援策等について、個人の能力開発及び組織間の連携を推進し、組織的な能力開発に取り組むことを目的とする。  b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む) 年間11回開催し、教員は概ね参加している。  c 委員会の審議事項等 (審議事項) 第2条 委員会は、次に掲げる事項を審議するとともに、組織的な取り組みを推進するための具体的方策を学長に提案する。 (1)教育研究活動改善のための企画立案 (2)教育研究の支援もしくは環境の改善方策のための企画立案 (3)FD・SD研修プログラムの開発・実施 (4)FD・SD活動に関する情報の収集と提供 (5)その他学長の諮問する事項 2 学長は、委員会の提案を受け、学内体制を整備する。
② 実施状況 a 実施内容 ・ 研究倫理に関する研修会(57人)

b 実施方法

主に講義形式研修であった。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

①研究倫理に関する研修会（57名）

②改正私立学校法の概要と大学への影響 「私立学校法とは何か、なぜ改正されたのか」（53名）

③社会貢献研修「本学における社会貢献に関する意見交換会」（41名）

④研究研修「ビッグデータの活用と課題」（28名）

⑤『誰でもどこでも起こりうる』から出発するハラスメントの対応と対策-その2（33名）

※欠席者へは録画した映像の視聴を促している。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

特になし

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

各科目の最後の授業終了後、WEBを利用して15項目からなる授業評価アンケートを実施した。各担当教員にアンケート結果を知らせ、それぞれの授業への改善意見や学生から寄せられた意見へのフィードバックを募り、授業を実施したほぼすべての教員からコメントを回収することができた。また教員からのフィードバックを含めたアンケート結果を研究科長が確認し、必要に応じて改善を促している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

各科目の授業評価アンケート結果（全項目/自由記述欄除く）と教員から寄せられたコメント（改善意見や学生から寄せられた意見へのフィードバック）は、学内のシステム上で学生及び教職員へ公開している。またアンケート結果についてはホームページを通じて学外へも公開している。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

#### (4) 自己点検・評価等に関する事項

##### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本専攻(D)は令和3年8月に設置認可を受け、開学に向けた準備を進め、令和4年4月に開学した。入学試験については、アドミッションポリシーに沿った選考方法を基に入学者の確保に努めた。すべての受験生に対し、保健医療・医学系の英語論文を用い、部分訳や要約等の設問にて英語の読解力、領域に関連した論述内容から専門領域における見識、論述力、入学目的の明確さと学習意欲、専門領域に関する見識、論理的思考力・表現力等の評価を実施し、以上の筆記試験と面接試験及び出願書類審査の結果を総合的に判断し、選抜を行い、令和4年度は定員3名に対し5名、令和5年度は3名、令和6年度は3名の入学者を確保することができた。

##### ② 自己点検・評価報告書

###### a 公表（予定）時期

・令和6年8月末日 公表予定

###### b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定（令和6年8月末を予定）

##### ③ 認証評価を受ける計画

・令和8年に評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受ける予定である。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

#### (5) 情報公表に関する事項

##### ○ 設置計画履行状況報告書（令和6年度）

a 公表予定の有無 [  有 ・  無 ]

≪ aで「有」の場合≫

b 公表（予定）時期 [ 調査結果公表後1ヶ月以内 ・  公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降 ]

c 公表方法 [ ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ( ) ]

≪ aで公表「無」の場合≫

d 公表しない理由 [ ]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。